

地域と学校との連携による持続可能な人材の育成

小金澤孝昭（特任連携会員、宮城教育大学教育学部教授）

はじめに

・学校教育における持続可能な未来を担う人材育成とは？

・ESD 持続発展教育 総合的学習(生きる力)~学習指導要領で具体化。

ESD=①生徒個人の力を引き出し、②基礎・基本学習を踏まえた専門的学力を高め③人と人が関われる総合的な学習能力を身につける学習過程のこと

・ 持続発展教育を進める方法 ①学校教育 ②学校と地域との連携教育
③学校間連携

1 持続可能な未来を担う人材とは？

● 未来を担う人材の3つの力と学習場面

① 持続可能な健康な心身、市民としての自覚、個人と社会との関係理解、
個人の学習力(自己管理能力)~自己の管理学習 **個人・家庭・学校**

② 基礎学力から専門的知識までの知識の体系、知識獲得の方法を学ぶ力~
専門的学習カリキュラム **専門学力・教科学習(基礎基本)**

③ 複数の教科の知識や方法論を学ぶ上で必要な相互に関連する能力~
・コミュニケーション力・創造力・情報受発信力・思考力の機会 **総合的学習・体験学習**

● 持続可能な社会づくり (ESD) で重要な基本概念(考える上でのポイント)

① 多様性②相互性③有限性④公平性⑤連携性⑥責任制

『多様で相互に関連しあい、かつ有限である社会を、地球市民が公平性を保ちながら、相互に連携しながら、各自の責任を果たしながら、持続可能な未来を創る』

● 持続可能な未来づくりの人材育成で重視する能力・態度

① 批判的に考える力

② 未来を予測して計画を立てる力

③ 多面的、総合的に考える力

④ コミュニケーションを行う力

⑤ 他者と協力する態度

⑥ つながりを尊重する態度

⑦ 進んで参加する態度

2 RCE モデル~グローバル人材育成モデル=地域社会のコンソーシアム

縦軸 学校関連携 幼稚園・保育園~小学校~中学校~高等学校~大学

横軸 学校~行政機関~博物館・美術館~地域社会市民・市民団体~企業

3 地域と学校の連携＝気仙沼モデル

- ・ ユネスコスクールによる持続発展教育(気仙沼市:35校)
- ・ 面瀬小学校モデル 2002年以降の教科学習＋総合的学習～持続発展教育

① 地域を素材にした ESD(環境教育)学習

- 1)生活環境～水質調査・酸性雨調査・田んぼ探検(土壌・生態系)
- 2)資源エネルギー 森林資源調べ(森は海の恋人) 消費電力調べ 炭焼き
- 3)人と自然 川遊び、川の生き物調べ 海辺の生き物 海藻おしばな
- 4)人と社会 地域の伝統芸能 未来のジオラマづくり 土地利用 リサイクル
- 5)人と食 スローフード 稲作体験 牡蠣養殖 塩作り

② 地域と連携した学習

- ・ 地域の企業(東北電力) ～エネルギー学習
- ・ 地域の専門家(建築士会気仙沼支部)～ジオラマづくり
- ・ 地域の漁協・農協(北かつ 農協)～まぐろ漁船体験 稲作体験
- ・ 地域の団体(ユネスコ協会・スローフード協会)～国際交流・食教育・キッズシェフ
- ・ 地域の行政機関など(小さな国際大使館 リアスアーク美術館) 公債交流
- ・ 地域のマスコミ～新聞記事

③ 東日本大震災時以降の防災教育・復興教育

- ・ 日常的な地域と学校との連携が重要
学校が避難所になる。

4 地域と大学との連携＝宮城教育大学の実践

① 体験学習の重要性

バーチャル思考で体験がともなわない大学生の現実

特に教員養成では、体験学習と体験を通じたコミュニケーション学習

② 地域社会との連携の場面コミュニケーション

- 1) いぐねの学校
- 2) 農産物直売市と体験学習の機会提供
- 3) 大学生の力を活用した地域活性化事業

おわりに